
入院のご案内



国立がん研究センター
中央病院

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

電話：03-3542-2511（代表） FAX：03-3547-5067

ホームページ：中央病院 <https://www.ncc.go.jp/jp/>

がん対策情報センター <https://www.ncc.go.jp/jp/cis>

目次

入院時の注意事項	1
入院について	3
入院までの流れ	
入院手続	
入院治療にむけて	4
入院生活に必要な持ち物	
入院生活について	6
● 治療についてのご説明／検査・治療	6
● くすり	7
● 看護／病室	8
● 有料個室・有料ベッド(選定療養)	9
● 病室内の設備／病棟内の設備	10
● 日課／食事	11
● 外出・外泊／面会	12
● ご家族・ご面会の方の貴重品の管理／ 付き添い／災害・非常時／ 医療事故防止・院内感染予防・褥 ^{じよく} そう(床ずれ)予防	13
● 緩和ケアチーム	14
● アピアランス支援センター／その他	15
● せん妄を予防するために	16
入院費用について	20
地域連携	21
地域連携について	
かかりつけの先生(ホームドクター)はいますか？	
退院手続きについて	23
退院決定 確認事項	
病院からのご案内	23
各種証明書、診断書等の発行について	
患者さん・ご家族のための相談窓口のご案内	
FAXによる連絡について	
ご寄付のお願い	25
フロア案内	26
院内のサービス施設	26



院内感染防止のための 入院予定患者の皆さまへのお願い

皆様の入院治療が安全・確実に実施できるように以下の点について、ご協力をお願いいたします。

入院予定日から 過去 5 日以内に	入院予定日から 過去 5 日間以内に	その他
・ 37.5℃以上の発熱 もしくは ・ 鼻水、のどの痛み、 せき、呼吸苦等の 症状がでた場合	・ 新型コロナウイルス 感染症患者、又は その疑いがある者 との接触があった 場合	・ 入院予定日から 過去 20 日以内に 新型コロナウイルス 感染症に かかったことがある 場合

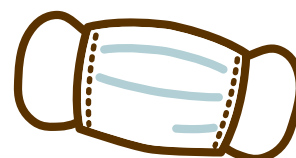


代表番号 **03-3542-2511** に連絡をいただき、
担当医（又は入院予定病棟師長）にその旨、お伝えください。

入院前は三密（密閉、密集、密接）の回避、マスクの着用、
手指消毒等、感染予防に特に努めてください。

入院中は不織布マスクの着用に加え、
病床カーテンを閉めて療養いただきます。
予備の不織布マスクをご持参ください。

感染防止にご理解、ご協力をお願いいたします。
ご不明な点は担当医にご相談ください。



入院患者さんへの面会について

面会受付

13：30～16：30

※面会手続（平日）入院病棟受付
（土日祝日）1階 時間外受付

面会制限

患者さん一人につき

1日1回、1組3名まで

面会時間

30分以内

面会場所

院内の指定する場所のみ

※飲食禁止

【注意事項】

- ・患者さんの状態によっては面会できない場合があります。入院病棟にお尋ねください。
- ・**発熱（37.5℃以上）、呼吸器症状等が見受けられた場合**は面会をお断りいたします。
- ・来院中および面会中は、**常時マスク着用**、面会前後の**手指衛生の徹底**にご協力ください。
- ・小学生以下の方の面会をご遠慮ください。

国立がん研究センター中央病院長 感染制御室 2026年7月21日

※ ご注意ください ※

入院当日に**患者本人と**
病棟まで一緒に付き添えるのは

代表者 1名までです

（病室には入れません）

※それ以外の方は1Fでお待ちいただきます。

※荷物が多い場合は入口横のカートをお使いください。

入院について

この「入院のご案内」では、入院手続や入院中の生活に必要なことを説明しております。
患者さんご本人はもちろん、ご家族の方も必ずお読みいただき、入院時にはこの「入院のご案内」をご持参ください。なお、不明な点がございましたら、遠慮なくお尋ねください。

入院までの流れ

外 来

担当医より入院の決定と説明、入院予約を取ることをお伝えします。

入院予約

8階患者サポートセンターで入院申込書を提出いただきます。

入院の連絡

入院日が決定したら前日までに病院から連絡を致します。

入院当日

1階入院受付・4番で、入院の手続きを行います。

入院および退院後の療養における緊急連絡先の登録もお願い致します。

また、1階薬剤部「持参薬確認センター」で、お薬の確認を行います。

入院受付と持参薬確認センターの両方にお立ち寄りいただいた後、入院病棟へお上がりください。

午前入院の方は昼食、午後入院の方は夕食からご用意します。

入院手続

- 入院当日は指定時刻までに 1階入院受付・4番においでください。
入院予定病棟と実際の入院病棟が異なる場合がありますので、必ずお立ち寄りください。
万一入院時間に間に合わない場合には、早めに入院受付・4番までご連絡ください。
- 手続きには以下のものがが必要です。
 - ☐ 診察券
 - ☐ マイナンバーカードもしくは、資格確認書・各種医療手当受給手帳
 - ☐ 身元引受書兼診療費等支払保証書
 - ☐ 印鑑
 - ☐ 「入院される方へ」(入院申込時にお渡ししますので記入してお持ちください。)
 - ☐ 「緊急連絡先」(入院申込時にお渡ししますので記入してお持ちください。)
 - ☐ 限度額適用認定証

※マイナンバーカードをお持ちの方は、限度額認定証の提出は不要です。

※入院期間中に保険資格が変わった場合は、入院受付にお声がけください。



入院治療にむけて

1.運動・食事

- 体力の維持・増進のために毎日適度な運動をするとよいでしょう。気分転換にもなります。足の筋力を鍛えるために歩くことを心掛けるとよいでしょう。
- 一般に肥満の程度が大きくなるほど手術の危険性が高くなると言われています。標準体重を上回っている方は、適度な運動と食事を心がけ、できるだけ減量しましょう。

2.治療中の病気

- 虫歯やぐらつきのある歯などの治療は済ませておくことをお勧めします。
- 現在治療中の病気（高血圧・糖尿病など）や内服薬がありましたら、医師にお知らせください。薬によっては治療に重大な影響を与えるため、内服を中止していただく場合があります。

3.禁煙

- 喫煙されている方は、禁煙に取り組みましょう。
- 全身麻酔の影響で手術後に痰（気道分泌物）が増えます。喫煙している方の気管は炎症を起こしやすく、全身麻酔の影響で痰が多くなります。また、傷の痛みで力強い咳ができず、常に痰がからんだ状態になります。このような状態が続くと気管や肺の中に痰がたまり気管を閉塞（無気肺）し、肺にまで炎症（肺炎）を引き起こしてしまいます。
- 「禁煙は難しい」とお考えの方は、禁煙外来の受診を医師にご相談ください。
- 院内・敷地内での喫煙は厳禁です。発見した場合には当院での入院はお断りすることがあります。

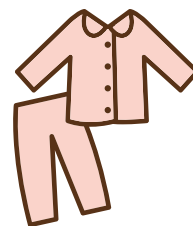
4.入院前日

- 爪を切り、手足ともにマニキュアやジェルネイルを除去してください。

入院生活に必要な持ち物

1.室内着・履物

- ☐ パジャマ（前開きが望ましい）、寝巻き等
※有料レンタルパジャマを利用いただけます。
- ☐ 下着
- ☐ 室内履き（足のサイズに合った、かかとが覆われている履物）
※つまずきやすいため、原則、スリッパやゴム製サンダルは禁止しています。
- ☐ 杖等、普段使用している補助具（院内にレンタルの杖はありません）



2.洗面道具

- ☐歯ブラシ ☐石鹸 ☐シャンプー ☐ヘアブラシ
☐ティッシュペーパー ☐電気かみそり
☐タオル(有料レンタルタオルを利用いただけます)



3.手術される方の必要な持ち物

- 以下は一般的な手術に必要な持ち物です。売店でも販売いたしております。
 - ☐うがい用のコップ(プラスチック製又は紙コップ)
 - ☐曲がるストロー最低1本又は吸い飲み(プラスチック)
 - ☐寝衣
- 必要な寝衣の種類や数量は手術により異なります。次の表の該当する診療科を参照の上
 でご用意ください。

ご準備いただく寝衣

必要物品		脳脊髄腫瘍科	呼吸器外科	食道外科	肝胆膵外科 胃外科	大腸外科	泌尿器・ 後腹膜腫瘍科	婦人腫瘍科	乳腺外科 頭頸部外科 皮膚腫瘍科 軟骨部腫瘍科
前開き パジャマタイプ	レンタル 可能		1 枚						術式によって必要物品が 異なるので看護師に ご確認ください
前開き パジャマタイプ	レンタル 可能	2 枚		3～4 枚	3～4 枚	3～4 枚	3～4 枚	3～4 枚	
T字帯	売店で 購入可能	2 枚	1 枚	3～4 枚	3 枚	2 枚	3～4 枚	2～3 枚	
腹帯マジック テープタイプ	売店で 購入可能				3 枚		3～4 枚	2～3 枚	

必要な持ち物に不明な点がございましたら、看護師へご確認ください。

- 手術前に、指輪、眼鏡、コンタクト、入れ歯、ウィッグなどの装着品をはずしていただきます。

4.食事の時にお使いになるもの

- ☐スプーンなど、箸以外の食器(箸は食事の際にお配りします)
☐湯のみ(こわれにくいもの)

5.その他

- ☐筆記用具 ☐イヤホン ☐義歯・義歯保管容器
☐補聴器 ☐眼鏡

- 必要な日用品は売店で購入可能です。
- 寝具は病院で用意します。シーツは週1回(汚れた場合は適宜)交換します。
- 有料個室にはパジャマ、ガウン、タオル、バスタオルをご用意しております。
- 持ち物には必ずお名前をお書きください。
- 事故防止のため刃物類(はさみ、カッター)、爪切り、ライター類の持ち込みはご遠慮ください。

〈売店デリバリーサービスについて〉

ベッドサイド設置のテレビ画面を切り替えると、日用品（一部商品）について売店へ注文ができます。詳しくは病室備え付けの説明書をご覧ください。

〈患者衣・タオルのレンタルサービスについて〉

- 当サービスをお申込みいただくと、レンタル患者衣、レンタルタオルを毎日お届けします。
- 洗濯は高温で消毒を行うため、常に清潔で安心な患者衣とタオルをご利用いただけます。
- 患者衣は、男女兼用でサイズはS～3Lまでご用意があります。

【申込方法】

入院当日以降、各病棟ナースステーションに申込書をご提出ください。

※変更・解約時は専用申込書を各病棟ナースステーションの専用BOXにご提出ください。

【料金、お支払い方法】

申込み開始日から1日あたり定額料金制です。

商品名	1日料金（消費税込）	
	2026年4月30日 ご利用分まで	2026年5月1日 ご利用分から
患者衣セット （ガウンタイプまたは上下タイプ）	264円	308円
タオルセット （バスタオルとフェイスタオル各1枚）	264円	308円

利用料金のお支払いは、退院時に会計窓口でお支払いください。

※申込みは期間契約のため、交換（洗濯）有無に関わらず、申込期間中は全日をご請求対象日となります。

※申し込み当日の解約、および、退院の場合も、ご請求の対象日となります。

※その他ご不明な点は、病棟スタッフへお尋ねください。

入院生活について

治療についてのご説明

- 治療について入院時に医師より説明し「入院診療計画書」をお渡しします。
- 電話での病状説明は行っておりません。
- 安静及び活動範囲について医師、看護師の指示に従ってください。

検査・治療

- 治療の前に医師が説明し、同意書等に署名をいただきます。わかりにくい場合は医師におたずねください。
- 検査については事前にご説明いたします。内容によっては同意書が必要となります。
- 検査等で飲み物や食事を控えていただくことや、食事時間が変更になることがあります。事前に職員からご案内します。指示に従うようにしてください。

1. 持参するお薬と入院時の確認

入院時に、現在お使いのお薬を1階薬剤部「持参薬確認センター」で確認します。

● 入院時にお持ちいただくもの

- ☐ 現在お使いのお薬（飲み薬以外に目薬・塗り薬・貼り薬なども含みます）
- ☐ お薬手帳、またはお薬手帳アプリ
- ☐ お薬の説明書（お持ちの場合）

● 他院からのお薬について

入院中にお薬が不足しないよう、あらかじめかかりつけ医から処方を受けてご持参ください。

● 持参するお薬の量について

入院期間が事前にわかっている方は「入院日数分」、期間が不明な方は「最大14日分」を目安にお持ちください。

● 服用をお休みしているお薬について

医師から服用をお休みするよう指示されているお薬も、入院中に再開する場合がありますので、ご持参ください。お薬の確認の際に、いつから服用をお休みしているかをお伝えください。

● 市販薬・健康食品・サプリメントについて

市販薬、サプリメント、健康食品は、入院中は原則として使用しませんので、持参する必要はありません。現在使用しているものがある場合は、治療や手術に影響を与える可能性があるため、必ず医師・看護師・薬剤師へお伝えください。

【お願い】

- ・お薬やお薬手帳は、すぐに取り出せるよう、手荷物の出しやすい場所に入れてお持ちください。
- ・現在使用していないお薬や、予備の古いお薬は持参する必要はありません。
- ・お薬の種類や数を確認するため、薬のシートはできるだけ切り離さずにお持ちいただくよう、ご協力をお願い致します。

2. 特に注意が必要なお薬

以下のお薬は、手術や検査の際に服用をお休み頂く場合がございます。これらのお薬を服用している方は必ず事前に医師へお申し出ください。

- 血液をサラサラにするお薬（抗凝固薬・抗血小板薬など）
- メトホルミンを含むお薬
- SGLT2阻害薬（糖尿病・慢性心不全・慢性腎臓病で使用されるお薬）
- 女性ホルモンのお薬（低用量ピル、更年期障害の治療薬など）
- 閉経後骨粗しょう症のお薬（SERM：選択的エストロゲン受容体調整薬）

3. 他院受診について

入院期間中、他の医療機関を受診（薬の処方を含む）することは、健康保険の規定により原則としてできません。ご家族だけが他の医療機関を代理で受診してお薬を受け取ることもできません。

やむを得ず他院の受診が必要な場合や、ご家族による代理受診（お薬の受け取りを含む）が必要な場合は、必ず事前に看護師へご相談ください。

【ご注意】

事前に当院からの書類を持たずに他院を受診された場合、保険が適用されず医療費が全額自己負担になる場合がありますのでご注意ください。

看護

看護計画を立てたり療養中の相談をお受けするなど、適切な療養生活を送っていただくために患者さんごとに受け持ち看護師を決めております。お気軽にご相談ください。

病室

- ご本人の病状だけでなく、他の方の病状等により急に病室を移動していただく場合があります。ご理解とご協力をお願いします。
- **緊急入院にて発生した有料個室・有料ベッド料金は、ご希望のベッドに移るまで発生します。**
- 病棟内のベッド管理によりご希望通りの期間でご希望のベッドへの入室・移動ができない場合もございます。
- 清潔、整理整頓を心がけ、荷物は最小限必要なものとしてください。
- 衛生面や危険防止のため、床や出窓部分には荷物を置かないでください。
- 足音、物音や話し声は他の方の迷惑にならないようご注意ください。
- 患者さん・ご家族、職員のプライバシー及び個人情報保護のため、病院内での撮影は禁止しております。また、ブログ・SNS等への無断掲載は固くお断りいたします。
- 感染予防のため、部屋の出入りや食事の前、トイレ後には手洗いを励行してください。
(各病室前に速乾性すりこみ式手指消毒剤を設置しております)
- 「ごみ」は分別が必要です。ごみ置場の表示に従ってください。
- 病院内・敷地内は禁酒(ノンアルコール酒類を含む)・禁煙(電子タバコ等を含む)、火気厳禁です。
- 香水、香りの強い洗濯用洗剤・柔軟剤・化粧品・整髪料のご使用はお控えください。

有料個室・有料ベッド

一般病棟の一部に、有料個室・有料ベッドを設けております。選定療養のため、お申込み制です。室料は自己負担となり、保険は適用になりません。

室料の計算は、午前0時が起点となります。入院日・退院日・移室日も、各1日分の料金が発生いたします。(例：1泊2日入院の場合、ご利用料は2日分となります。)

※サインいただく「特別療養環境室申込書 兼 説明・同意書」に基づいて料金が発生します。

必ずスタッフの説明を受け、ご納得の上、お申し込みください。

病 棟	タイプ	1日料金（消費税込）
18階病棟	A（個室）	176,000 円
	B（個室）	110,000 円
	C（個室）	58,300 円
一般病棟	D（個室）	47,300 円
	E（多床室窓側）	6,600 円

◆A～E タイプベッドについて *設備・療養環境などについては、入院受付にて問合せてください。

A～C タイプ



- 18階病棟にある個室タイプの有料ベッドになります。
- 入院時にアメニティグッズが有ります。
- シャワー室、トイレ、簡易キッチン等の充実した設備を完備した、安心のプライベート空間となります。



※ Aタイプのお部屋では、業務上の打ち合せなども可能です。高速WiFiが使用可能ですので機器を準備いただければWEB会議が可能です。マスクを着用のうえ30分以内であれば、特別会議室（10名以下で使用可能）もご用意しています。

D タイプ

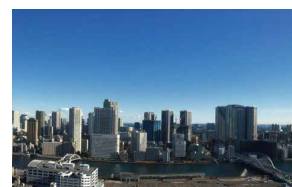


- 11階～17階一般病棟にある個室タイプの有料ベッドになります。
- 入院時にアメニティグッズが有ります。
- シャワー室、トイレを完備したプライベート空間となります。



E タイプ

- 11階～17階一般病棟にある多床室タイプの有料ベッドになります。
- 入院時にアメニティグッズが有ります。
- 窓側ベッドで、カーテンにより仕切ることが出来ます。
- 高層階から築地地区の景色を臨め、開放的なベッドです。



2人部屋窓側



4人部屋窓側



注) 2人部屋と4人部屋の選択は出来ません

病室内の設備

1. ナースコール

ご用のある時は枕元のボタンを押してください。
浴室やトイレにもボタンを取り付けてあります。



2. テレビ

有料のカード式のテレビが床頭台に設置されています。「院内情報」は、無料でご覧頂けます。
有料個室のテレビは、無料でご覧頂けます。個室以外の方は、イヤホンを使用ください。また、備え付けのタッチパッドを操作して、売店の商品の一部を一覧画面から選択して購入することが出来ます。購入されましたら売店のスタッフが商品を持って病室へ伺いますので、現金でお支払いください。

3. プリペイドカード

備え付けテレビやコインランドリーは「テレビカード」をご利用ください。
カードの自動販売機は各病棟食堂内にあります。テレビカードに残金がある場合は、1階ロビー内の「テレビカード精算機」で精算できます。

4. 金庫(セーフティボックス)

床頭台に付いていますので、貴重品の保管にご利用ください。
紛失や盗難防止のため、貴重品や多額の現金、クレジットカード等は持たないようにしてください。
また、貴重品・携帯電話やスマートフォン・パソコン等の電子機器・金庫の鍵等の保管管理は自己責任で行ってください。

5. 冷蔵庫

冷凍庫はありませんので、ご注意ください。

病棟内の設備

1. トイレ、シャワー室

トイレットペーパー以外のものは汚物入れに捨ててください。
シャワー室、浴室の利用(9時～17時)を希望される方は看護師へお申し出ください。
使用後の髪の毛等のごみは各自で処分し、脱衣室には私物を置かないでください。

2. 電話

- 病棟の電話は業務用ですので、お取次ぎしておりません(伝言は承ります)。
携帯電話の通話は、指定場所でお願します。病室内での通話はお控えください。
- 指定場所以外では、電源をお切りになるかマナーモードとし、他の方の迷惑と
ならないようマナーを守ってご使用ください。
- 公衆電話は各階エレベーターホールにあります。
使用時間は原則として6時から21時となっております。

3. 洗濯

- 洗濯・洗濯物の乾燥は病棟に設置されたコインランドリーをご利用ください。(洗剤不要)。
100円硬貨またはテレビカードでご利用いただけます。
- 有料クリーニングの利用をご希望の場合、看護師へお申し出ください。
(業者が病室に伺います。代金前払いでお預かりし、仕上がり次第お届けします。)

4.食堂

- 病棟内の食堂は入院患者さんが飲食するための場所です。患者さんがリラックスできるように配慮ください。面会者がお持ちいただいて発生したごみは、持ち帰りいただくか、病棟のごみ庫へ廃棄いただくようお願いします。

5.Wi-Fi(無線LAN)

- 11階～18階病棟では、Wi-Fi(無線LAN)にてインターネットの利用が可能です。
接続方法については、各病棟にてご確認ください。

6.その他電気製品等の使用について

- 電気製品の使用にあたっては、他の患者さんの迷惑にならないように御配慮ください。
- パソコン等を使用する場合は、画面の光、キーボードの打鍵音に注意するほか、時々休憩するなど体調管理を行ってください。
- 携帯ラジオ、携帯音響機器、携帯映像機器、パソコンおよび携帯ゲーム機の使用の際は、音が外に漏れないようにイヤホン等を使用し、他の患者さんに迷惑をかけないようにしてください。(イヤホンは売店でも購入できます。)
- 電気製品、パソコンなどを持参された場合は十分な自己管理をお願いします。
- 携帯電話の充電などに使用するコンセントについては、看護師に確認をし、指示を受けたコンセントを利用してください。なお、赤と緑のコンセントは、医療機器専用の電源のため、絶対に使用しないでください。
- 主治医や看護師等から使用中止の要請があった場合は、直ちに使用を中止してください。

日課

入院中の生活は概ね次のような流れとなります。

6時	起床(点灯)・検温	14時	検温
8時	朝食	18時	夕食
9時頃	医師の診察や検査、治療	19時	検温
10時	検温	21時	消灯・就寝
12時	昼食	※検温時間は患者さんの状態により異なります。	



食事

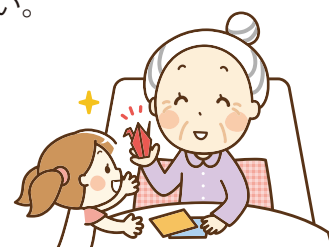
- お食事は病状に合わせてご用意いたします。食事の際のお茶類の提供はございません。
- 食物アレルギー、主食の変更などで希望がある場合は看護師にご相談ください。
特に、アレルギーは治療に影響しますので、必ず入院毎の初日にご申告ください。
- 治療の影響などによる食欲低下や食事についてご不安な事などがありましたら、栄養相談を行っておりますので、医師にご相談ください。
- お食事の持ち込み(特に刺身や生卵などの生もの)、出前等をご遠慮ください。
- 食中毒を防ぐため、配膳された入院食や冷蔵庫に保管したゼリー・乳製品等は、早めにお召し上がりください。
- 病状に応じて、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等で構成する栄養サポートチームが栄養管理を援助します。

外出・外泊

- 病棟から離れる時には、看護師に声をかけてください。
- 外出・外泊は主治医の許可と申請書の記入が必要ですので、事前に看護師にお申し出ください。
- 短時間であっても病院の敷地外へ出られる時には届け出が必要です。
お出かけ前に「外出・外泊申請書」のご記入・ご提出をお願いします。
- 外出・外泊許可書を携帯し、お戻りの際に看護師にお返してください。
- 外出・外泊予定時間より帰院が遅れる際は、入院病棟にご連絡ください。
- 入院中の患者さんが当院以外の保険医療機関にかかる必要がある場合は（ご家族が代理の場合を含む）は、当院から先方保険医療機関に宛てたお手紙を持参していただく必要があります。
お出かけになる前に、必ず看護師にお声をかけてください。
- 新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、外出・外泊は禁止されることがあります。
ご協力をお願いします。

面会

- 当院はがん専門病院であり、免疫力の低い患者さんが多くいるため、院内感染対策強化の目的により、面会制限を行っています。
- 面会される方は、患者さんの安静と治療の妨げにならないように、面会時間をお守りください。
面会時間については、ホームページまたは職員にお尋ねください。
面会時間内に平日は病棟にて、土日祝日・年末年始は1階時間外受付にて面会シールをお渡しいたします。面会シールは見える位置に貼付し、ご面会ください。
- 面会される方は、病棟受付で看護師またはクラークに声掛けをお願いいたします。患者さんに確認のうえ、病室にご案内いたします。
- 感染予防のため体調の悪い方（発熱や咳などの風邪症状、下痢、おう吐の症状のある方）・小学生以下のお子さん・多人数での面会や、お見舞いのお花の持ち込みはできません。
- インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症などは症状が出てくる前に患者さんにうつすことがあります。症状がなくても常時マスク着用のうえ面会してください。
- 病室では他の方への迷惑にならないようにお願いします。
- 面会される方の病室での飲食はご遠慮ください。
- 面会される方は病室のトイレをご使用いただけません。
各階車いすトイレまたは1階・19階をご利用ください。
- 抗がん剤等の治療において、匂いに敏感になられる患者さんがいらっしゃいますので、香水やオーデコロン等の使用はご遠慮ください。
- 入院の有無に関する問い合わせには回答を致しかねます。
お知り合いの方には、事前に入院病棟・病室をお伝えください。



患者さん・ご家族・ご面会の方の貴重品管理

- 現金・携帯電話やスマートフォン・パソコン等の電子機器など、貴重品類の破損・紛失、盗難につきましては、当院では責任を負いかねますので、ご自身での管理をお願いします。

付き添い

- 患者さんの病状等でご家族の希望があり、医師が認めた場合に限り、付き添いが可能です。「付き添い許可申請書」をご記入いただきます。
- 付き添いベッドの貸出をしております(有料)。

災害・非常時

- 災害に備え、病棟の掲示板に避難経路を明示しています。入院時にご確認ください。
- 火災等の非常時には職員が避難誘導を行います。指示に従い落ち着いて避難してください。

医療事故防止・院内感染予防・褥^{じよく}そう(床ずれ)予防

患者さんに、安心・安全で良質な医療を提供するために、医師・看護師・事務職員等で構成されるチームで、医療事故防止、院内感染予防のための監視と指導を行っています。患者さん・ご家族の方にもチームの一員として医療事故防止、院内感染予防へのご協力をお願いします。

1. リストバンドの装着について

安全な医療の一環として、バーコードの付いた「認証リストバンド」をつけていただきます。入院初日に病棟においてご本人であることを確認させていただいたのちに、手首におつけいたします。ご面倒でも入院中は、つけたままをお願いいたします。夜間も含め、注射・採血・レントゲン・輸血等を実施する際にバーコードリーダーを読み取り、ご本人の確認をいたします。

2. 患者さんのお名前と生年月日の確認について

患者さんの誤認防止のために、医師・看護師・その他の医療従事者が、注射・処置・検査等の前に患者さんのお名前(フルネーム)と生年月日を確認させていただきます。ご協力をお願いします。



3. リスクマネージャーについて

リスクマネージャーは、安全かつ適切な医療、看護の提供ができるような体制作りの役割を担い、各職場における医療事故の防止並びに医療体制の改善方法についての検討及び提言を行っています。

当院では、各部署にリスクマネージャーを配置し、ネームカードに「リスクマネージャー」と表示しております。

4. 転倒予防について

転倒により、骨折や脳出血など、重大な障害につながり、命にかかわる場合もあります。

病院内で安全にお過ごしいただくために、以下についてご協力ください。

- 足のサイズに合った、かかとが覆われている履物を使用してください。
スリッパやゴム製サンダルは、つまずきやすいため、禁止しています。
- むくみなどにより、履物の選択に迷われる方は、医療者にご相談ください。
- 普段、杖を使用されている方は、入院時にご持参ください。

※入院中の転倒予防についての詳しい注意事項は、お部屋に準備してあるファイル内の入院患者
転倒・転落予防説明用紙「安全な入院生活を送るために～転倒・転落を予防しましょう～」を
ご参照ください。

5. 感染予防

感染予防には「手指衛生（流水で手を洗ったり、アルコール含有手指消毒剤を手にすりこむ）」は非常に大切な対策の一つであり、当院では医師・看護師をはじめとする全ての職員は、医療行為前後に手指衛生を行っております。また、患者さん・ご面会の方へはアルコール含有手指消毒剤による手指衛生をお願いしております。

病室入口に設置してあるアルコール含有消毒剤を入退室時、食事前、トイレ後、ご利用いただき、感染予防にご協力をよろしくお願いいたします。



6. 褥^{じよく}そう(床ずれ)予防

褥^{じよく}そうは長時間同じ姿勢で過ごしたり、栄養や血行が悪いと発生しやすくなります。思うように身体を動かせない状況になった場合、定期的に体の向きを変えたり、マットレスの種類を変更する等して、褥^{じよく}そうの発生を予防します。必要時には褥^{じよく}そう対策チームにより治療やケアを行います。

緩和ケアチーム

医師からの依頼に基づき、緩和ケアチーム（緩和ケア医、精神科医、看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師等で構成）が身体的な苦痛（痛み、息苦しさ等）や精神的な苦痛（不安、不眠、抑うつ等）を和らげる治療に当たっています。

緩和ケアチームの支援をご希望の場合は、担当医または看護師にご相談ください。

アピアランス支援センター

脱毛や爪、皮ふに現れる副作用等、外見の変化が気になる方を病院スタッフがサポートします。

1Fセンター利用時間：月・火・水・木曜日 12:00 ～ 13:00

外見ケアのグループプログラム：毎週火曜日・木曜日 13:00 ～ 14:00

※この他の時間をご希望の方は、病棟スタッフに“個別相談”をご依頼ください。

その他

1.お名前での呼び出しについて

患者さんの誤認防止のため、受付等でお名前をお呼びしたり、病室に患者さんの名札を掲示しております。名前での呼び出し等をご希望されない場合はお申し出ください。

2.敷地内禁煙

安全で快適な環境と皆様のご健康を守り、疾病を予防することを使命とする立場から、建物、駐車場、通路等を含め病院敷地内は全面禁煙とさせていただきます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

3.レジデント、研修生、学生の受け入れについて

がん専門医育成のための教育制度があり、一定の経験を積んだ医師がスタッフ医師の指導のもと、診療に従事しております。また、国内外の医師、看護師、薬剤師、放射線・臨床検査技師の研修や医学生、看護学生などの学生実習も受け入れています。高度ながん医療を担う医療従事者の育成は、当院の重要な使命のひとつですので、ご理解いただきますようお願いいたします。

4.介助・車椅子・盲導犬等を必要とする方へ

1階総合案内にご相談ください。

5.ボランティア

患者サービスとしてボランティア活動が行われています。

ボランティアは名札を付け、外来・入院の案内、図書貸出の巡回、院内ミニコンサート等のサービスを実施しています。

6.その他

職員が金品等の贈り物を受け取ることは禁止されております。

入退院に際してのお心づかいは一切不要です。



せん妄を予防 するために

せん妄は、一般に入院している患者さんの
20～30%にみられるといわれています。
当院では、患者さん・ご家族と一緒に
せん妄の予防や対応に取り組んでいます。



国立がん研究センター中央病院看護部

2025 年 10 月確認

せん妄とは？

せん妄は、感染や脱水、貧血、お薬など、体に何らかの負担がかかったときに生じる脳の機能の乱れであり、おもに下記のような症状がみられます。

- ☐ ぼんやりしている
- ☐ 話のつじつまが合わない
- ☐ 場所や時間がわからなくなる
- ☐ 夜眠れない、昼間はうとうとしている
- ☐ 怒りっぽくなる、興奮したりする



せん妄になるとどんな影響がある？

- ◆ せん妄になると、「ぼんやりする」「考えがまとまらない」などの症状が出現します。そのことで、患者さん自身がつらさを感じやすくなると言われています。ご家族も、いつもの患者さんと違う様子に戸惑ったり、どのようにお話ししていいか悩まれる方がいらっしゃいます。
- ◆ せん妄になると、患者さんが治療をしたことを忘れてしまったり、混乱してしまうことで、転んでしまったり、大切な点滴のチューブなどを抜いたり、傷つけてしまうことがあります。そのようなことがあると、追加で検査や治療が必要になり入院が長くなることがあります。

どんな人がせん妄になりやすい？

- ☐ 高齢の方
- ☐ お酒の量が多い方
- ☐ 認知症、あるいは普段から物忘れのある方
- ☐ 視力の低下、難聴がある方
- ☐ 以前、せん妄になったことがある方
- ☐ 睡眠導入薬などの眠気がでる薬を飲まれている方

上記のような方が、がんの治療をされるとせん妄が起こりやすいと言われています。

せん妄を予防するための4つのお願い

適切な対応をすることで、せん妄の予防につながります。そのためには、患者さん、ご家族、担当医や看護師と一緒に協力しあうことが必要です。

1 痛みがあるときは我慢をしないで伝えてください

強い痛みは、せん妄の原因になります。痛みがあるときは、我慢せずに担当医や看護師に伝えてください。



2 水分をこまめにとりましょう

体の水分が不足するとせん妄になりやすくなります。水分をこまめにとりましょう。



3 体を動かしましょう

せん妄を予防するためには、日中動くことが大切です。できるだけ座って過ごす時間を作ったり、散歩をしたり、起きている時間を作るようにしましょう。



4 お薬に注意しましょう

お薬の中にはせん妄の原因になるものがあります。特に睡眠導入薬など眠気がでる薬は注意が必要です。これまで何年も飲んできたお薬でも、体調が悪い時に飲むと、せん妄を引き起こすことがあるのでご相談ください。

安全な環境作りにご協力ください

◇ はさみや爪切りなどの刃物の持ち込みはご遠慮ください

せん妄になると、治療をしていることを忘れてしまったり、混乱してしまうことがあります。そのため、大切な点滴のチューブなどを抜いたり傷つけたりしてしまうことがあります。ハサミや爪切りの持ち込みはご遠慮ください。



◇ いつもの生活に近づけましょう

入院すると、今までと自宅とは異なる生活環境の中で検査や治療を受けることになります。できるだけ周囲の状況がわかりやすくなるように、いつも使っている補聴器や眼鏡がある場合はご持参下さい。また、病院では日付や時間の感覚もわかりにくくなります。カレンダーや時計をご持参いただき、見えるところに置くと安心につながります。



せん妄になった場合はどうしたらいいの？

せん妄を予防するために注意することはとても大切ですが、体に負担がかかっている場合にはせん妄は起こりやすいものです。適切な治療を行うことで、患者さんのせん妄症状はよくなります。せん妄の治療は、負担となっているからだの問題を取り除くことが治療の基本となります。これに、脳の機能の乱れを改善するお薬、患者さんが安心できるような環境の調整を行っていきます。

下記のような症状があった場合や
ご家族からみて「いつもと様子が違う」ことがあった場合は
担当医や看護師にお伝えください。

患者さんご自身が感じる症状

- ☐ ぼんやりして、集中できない
- ☐ いつもと違って考えがまとまらない
- ☐ 夢か現実かわからない
- ☐ 昼夜が逆転する
- ☐ 睡眠のリズムが崩れる
- ☐ 時間や場所がわからない
- ☐ おかしなものが見える
(虫、小さな動物など)



ご家族からみると・・・

- ☐ ぼんやりしている
- ☐ 話のつじつまが合わない
- ☐ 場所や時間がわからない
- ☐ 怒りっぽくなる、興奮したりする
- ☐ 見えないものを見えると言ったり、ありえないことを言ったりする
- ☐ 以前と性格が大きく変わったように感じる



ご家族のみなさまへ

患者さんの意識が混乱しているときは、ご家族がそばにいただけで患者さんは安心されます。

- つじつまの合わないお話があっても、無理にただす必要はありません。
- いつも通りのおちついた言葉かけをお願いいたします。

入院費用について

1.退院会計について

平日退院の方：

退院前日の午後に概算書を病室でお渡しします。退院当日に1階会計窓口・7番にて請求書と診療明細書を受領し、お支払いください。

※前日時点の請求額ですので、お支払いから退院までの間に発生した医療費は後日に追加請求させていただくことがあります。

休日（土日祝日）退院の方：

休日の前々日に概算書を病室でお渡しします。休日前日の14時～17時に1階会計窓口・7番にて請求書と診療明細書を受領し、お支払いください。前日に受け取れなかった方は退院当日に1階の時間外受付で請求書等をお受け取りください。

※休前日時点の請求額ですので、退院までの間に発生した医療費は後日に追加請求させていただくことがあります。

2.複数月にまたがって入院された場合

月末までの請求書を翌月15日頃病室にお届けします。期日までに1階自動精算機もしくは会計窓口にてお支払いください。銀行振込も可能です。（振込先は請求書に記載しております。）

※自動精算機でのお支払いは診察券もしくは請求書が必要です。

【入院費のお支払いについて】

◆会計窓口：9:30～17:15（平日のみ）

◆自動精算機：9:30～20:00（土日祝日を含む毎日）

現金、クレジットカードまたはデビットカードにてお支払いください。

当院ではクレジットカード払いを推奨いたします。銀行振込をご希望の場合は、1階会計窓口・7番でご相談ください。

※クレジットカードは以下のカードのみ使用できます。事前に利用上限額をご確認ください。



3.領収証書について

領収証書は、医療費控除等の申請に必要ですので大切に保管してください。紛失された場合は、1階会計窓口・7番にて1部2,200円（消費税込）で領収証明書を発行いたします。

4.高額療養費制度

- 医療費が高額になり、1ヶ月の自己負担限度額（以降、限度額という）を超えた場合は、医療費の支払額を保険者に申請することで、限度額を超えた分の医療費について保険者から還付を受けられる制度があります。
- ご加入の健康保険組合、市町村の国民健康保険担当、社会保険事務所等に「医療費が高額になる見込みがある」旨を事前申請すると、「限度額適用認定証」を発行してもらえます。この限度額適用認定証を1階の入院受付・4番で提示すると、退院時に支払う医療費は限度額の範囲内までとなります。

※食事代、自費診療分（差額ベッド代等）は、高額療養費制度の適用対象外です。

〈高額療養費制度限度額適用認定証のご案内〉

マイナンバーカードをお持ちの方は限度額認定証の提出は不要です。

限度額認定証は、入院手続きを行う際に保険証と一緒にご提出ください。

保険者に申請中の場合は、申請書のコピーをご提出ください。

入院中に認定証がお手元に届いた場合は、会計窓口までご提出ください。

よくある質問

Q. 院外処方のお薬代が、自己負担限度額を超えるほど高額になりそうです。

どうしたらよいでしょうか。

A. 院外薬局では、限度額適用認定証を提示してください。

当月の医療費として合算する医療費がある場合には、保険者に手続き方法を直接問い合わせてください。

- 制度に関する詳細は、各市町村または勤務先の保険担当部門にお尋ねになるか、
当院の医事管理課にご相談ください。

5.入院医療費の計算方法(DPC)について

当院はDPC対象病院です。病名と治療内容をもとに医師が診断群分類を決定し、厚生労働省の定めた1日当たりの診断群分類点数(包括点数)をもとに入院費を計算します。手術やリハビリなどは外来診療と同じように出来高計算となりますが、検査・注射・お薬等は一部の例外を除いて1日の包括点数に含まれています。

地域連携

地域連携について

【国立がん研究センター中央病院 地域連携ポリシー】

1. 多くの国民に開かれたがん医療の日本を代表とする病院として、地域連携を強化します
2. 患者さんが安心して治療・療養できるように複数主治医制を推進します
3. 院内外の様々な専門職が連携して(チーム医療)、主体的に患者さんを支援します
4. 急性期のがん治療を要する患者さんを迅速に受け入れられる病床管理・運営を行います
5. 地域で安心な療養生活を送ることができるための、切れ目のない地域連携を行います
6. より多くの患者さんの円滑な通院を支えるため、外来診療の地域連携を推進します

かかりつけの先生（ホームドクター）はいますか？

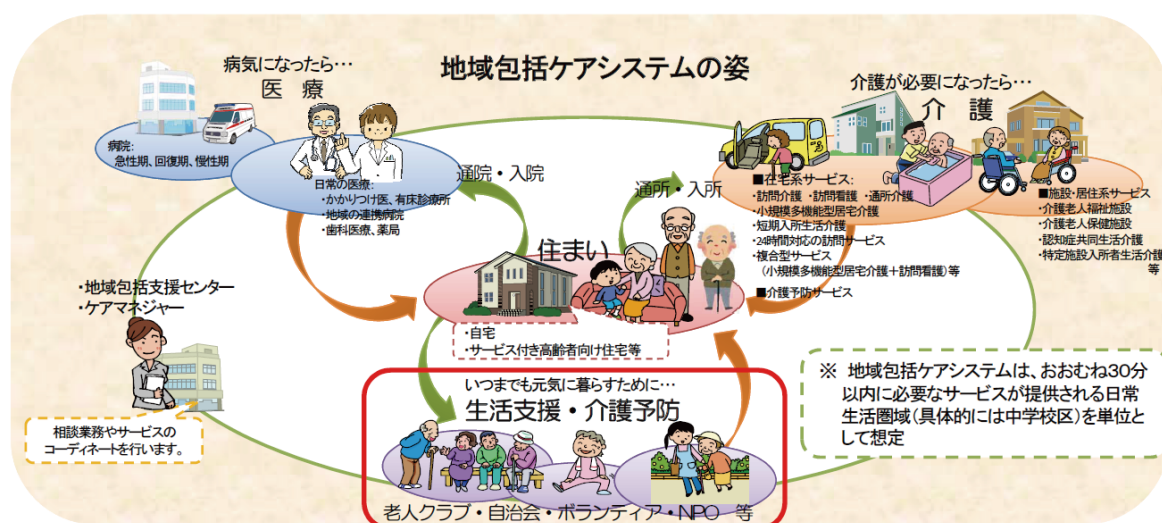
当院はがん専門病院であるため、風邪などの一般診療、生活習慣病などがん以外の疾患の診療や、療養生活における支持療法や症状緩和、在宅医療等についてお住まいの地域の先生と連携しております。どなたさまも、お近くにかかりつけ医（ホームドクター）を決めていただき、当院と連携できる体制「複数主治医制」とするようにおねがいしています。お住まいの地域のかかりつけ医を探すお手伝いをさせていただきます。ご相談は、がん相談支援センターで対応いたします。

病院棟8F患者サポートセンター内

がん相談支援センターがん専門相談員（医療ソーシャルワーカー、看護師）

担当医・看護師を通して面談をお申込みいただくか、「患者さんとご家族の相談窓口」のご案内のページをご参照ください。

また、当院では地域の医療機関との連携をさらに強化するため、「医療連携登録制度」を運用しています。連携医療機関は、当院の診療内容や連携体制への理解が深く、患者さんの身近な相談先・かかりつけ医としても安心して受診いただける先生方です。ご希望がございましたら連携医療機関のリストをご提供させていただきます。または当院ホームページ「連携医療機関検索サイト」(<https://physician-referral.ncc.go.jp/>)でも地域ごとに連携医療機関を検索できますので参考にご活用ください。



退院手続きについて

退院決定

- 退院日につきましては、医学的に病状を判断して医療チームから相談させていただきます。
- 退院が決定しましたら、医師・看護師より退院後の生活についてご説明します。

確認事項

退院に際し、以下の内容をご確認ください。

- | | |
|---|---|
| ☐ 忘れ物はございませんか？ | ☐ 退院後のお薬 |
| ☐ お会計はお済みですか？ | ☐ 退院療養計画書 |
| ☐ 次回外来日（又は次回入院日） | ☐ 入院時に持参された他院のレントゲンフィルム等はお返しいたします。 |



病院からのご案内

各種証明書、診断書等の発行について

受付窓口：1階 文書窓口・5番 問い合わせ：03-3542-2511（代表）

受付時間：8:30～17:00（土日祝日・年末年始を除く）

持参いただくもの： 1) 診察券

2) マイナンバーカードもしくは、資格確認書

3) 委任状と身分証（ご本人以外の申込みに必要）



- 保険会社に提出する診断書は、指定用紙を（無記入の状態）で必ずお持ちください。
また、入院期間の記載を含む診断書は、退院日が決まってからお申し込みください。
（退院日が未決定の場合は、お申し込みを受付できません。）
- 放射線治療に記載を含む診断書は、一連の放射線治療が全部終了してから
お申し込みください。（終了予定日だけでは、お申し込みを受付できません。）
- 申し込みからお引き渡しまで、通常で3～4週間のお時間をいただいております。
検査結果に関する記載は、結果が出るまでに1ヶ月以上を要する場合がございます。
- 文書のお引渡しは、原則として特定記録郵便で郵送となります。
その他、ご希望がありましたら文書窓口にご相談ください。

患者さん・ご家族のための相談窓口のご案内

こんな心配はありませんか？

- がんと言われ頭の中が真っ白です。これからのことを考えると不安でいっぱいです。
- 現在受けている治療以外にどんな治療法がありますか。
- 先生から病気のことを説明されましたが、難しくてよくわかりません。
- 医療費、生活費のことが心配。

- 退院することになったけれど、自宅でどうしたらいいのか。
- 臨床試験って、よくわかりません。
- がんゲノム医療について相談したい。
- 仕事に関して相談したい。
- 子供を授かることができるか心配。
- 医療安全のことを相談したい。

がん相談支援センターは、ご本人やご家族が、がん治療における不安や悩み、療養生活、お仕事のことなどを気軽に相談いただける窓口です。医療ソーシャルワーカーや看護師が皆様のお話を伺い、課題解決に向けて一緒に考え、お手伝いをさせていただきます。また、内容に応じて専門の看護師やスタッフをご紹介しますほか、得られた情報の整理や解説も行っています。そのほか、他院へのセカンドオピニオン、当院へのご要望・苦情についても承っております。

ご相談の際は、病院8階の患者サポートセンター、またはがん相談支援センターまで直接お越しください。専門的なアドバイスが必要な場合は、十分なお時間を確保するため事前のご予約をお勧めしております。

がん相談支援センター（責任者：里見絵理子）

場所：8F 患者サポートセンター内

対応時間：8:30-17:15（土日祝日を除く）

担当：がん専門相談員（医療ソーシャルワーカー、看護師等）

- * 相談をすることにより、不利益が生じることはありません。
- * 伺った内容のうち、患者さん治療に役立てるため医療者間で共有することがあります。
「医師に知られたくない」という内容については、まずは担当相談員にその旨ご相談ください。
- * 当院へのご意見・ご要望は、投書「利用者の声」でも承っております。投書箱は、病棟・外来の各フロアに設置しております。また、当院からの回答は、投書月から2ヵ月以降を目途に、病院1階エレベータ横（エレベーターに向かって左側）掲示板に掲出いたします。

病状等により電話連絡が難しい患者さんのFAXでの連絡について

喉の手術で声が出しづらいなど電話での連絡が難しい患者さんに置かれましては、FAXをご利用ください。

以下のように内容に応じて記載して、FAX番号をご確認の上、送信してください。

1) 入院申し込み後の有料個室、有料ベッド希望の変更について

- 標題を「希望ベッドの変更」としてください。
- 同紙に“診察券の番号”、“患者さんの氏名”、“入院予定日”、“変更内容（例：「個室Bから個室Dへの変更を希望」など）”、“折り返しのFAX番号”を箇条書きでお書きいただき、FAX(03-3547-5067)してください。

2) 次回診察日の予約・変更に関しまして

- 標題を「診察予約」もしくは「予約変更」としてください。
- 同紙に“診察券の番号”、“患者さんの氏名”、“予約希望日”もしくは“現在の予約日と変更希望日”、“折り返しのFAX番号”を箇条書きでお書きいただき、FAX(03-3542-2547)してください。

* 予約状況により必ずしもご希望に添えない場合があります。

* 同日に検査などのご予約がある場合には、主治医への確認が必要になります。



ご寄付のお願い

当センターでは、2020年4月「国立がん研究センター基金」を設置し、受け入れを開始しました。皆様からいただいたご寄付は「がんにならない、がんに負けない、がんと生きる社会」を目指すため、がん研究・がん医療のために大切にに使わせていただきます。「がんに負けない国へ。」そんな未来を実現するために、共に立ち向かっていただけませんか。

税制上の優遇措置

国立がん研究センター基金へのご寄付に対しては、所得税法、法人税法による税制上の優遇措置が受けられます。別途お送りする国立がん研究センター発行の「領収書」に基づき、所轄税務署に確定申告してください。税制上の優遇措置の詳細は「国立がん研究センター基金パンフレット」または下記の二次元コードよりご確認ください。

ご寄付への感謝

お名前の公表をご希望される場合、当センター中央病院設置の銘板（寄付金額10万円以上の方を対象）、患者さんやご家族向けの広報誌「日々歩」に掲載させていただきます。

紺綬褒章の推薦

当センターは、内閣府賞勲局より紺綬褒章に係る公益団体として認定を受けており、寄付者様のご意向に添って紺綬褒章の推薦をいたします。紺綬褒章は、国の褒章制度のひとつで、公益のために私財（個人であれば500万円以上、団体であれば1,000万円以上）をご寄付された方に授与される褒章です。予めお申し出いただいた分割入金によるご寄付も含まれます。

お手続き

1. WEBサイトによるご寄付

下記の二次元コード（国立がん研究センター基金 WEB サイト）からお申込みいただけます。クレジットカード、銀行振込でご寄付いただけます。
ご利用いただけるクレジットカード：VISA、MASTER、JCB、AMERICAN EXPRESS、DINERS CLUB

2. 書面（郵送等）によるご寄付

「国立がん研究センター基金パンフレット（寄付通知書同封）」をお渡しいたしますので、病院スタッフへお声かけいただき、寄付係をお呼び出してください。

3. 来院時によるご寄付（現金等）

病院スタッフへお声かけいただき、寄付係をお呼び出してください。

4. 遺贈寄付について

当センターでは遺言によるご寄付（遺贈）や相続財産のご寄付をお受けしています。当センターにご寄付いただいた財産について相続税は課税されません。未来のがん研究への貢献の機会として、ご検討ください。

お問い合わせ

国立研究開発法人国立がん研究センター 寄付係 電話番号：03-3547-5333
受付時間：9時から16時（土日祝日・年末年始を除く）



フロア案内

中央病院棟		連絡通路
19階	カフェテリア、美容室、理容室	
18階 ～ 11階	病棟	
9階	手術室	
8階	集中治療室、手術待合室、外来診察室 患者サポートセンター、がん相談支援センター	
5階	生理機能検査室(超音波、心電図、肺機能) ストーマケア、リハビリテーション	
4階	放射線撮影室(X線・透視・CT)、IVRセンター	
3階	通院治療センター(第1・第2)、外来診察室(歯科) MRI撮影室	診療棟4階へ連絡
2階	外来診察室(A・B・C・F) 中央採血室	
1階	受付、外来診察室(E・G)、アピアランス支援センター コンビニ売店、喫茶、ATM(コンビニ売店内)ほか	診療棟1階へ連絡
地下2階	放射線治療、核医学検査	診療棟地下2階へ連絡

診療棟		連絡通路
5階	内視鏡センター	
4階	内視鏡センター(受付)	中央病院棟3階へ連絡
2～3階		
1階	検診センター	中央病院棟1階へ連絡
地下2階	放射線治療	中央病院棟地下2階へ連絡

院内のサービス施設

サービス内容	場所	営業時間	休業日
カフェテリア	19階	平日 8:00～19:00(ラストオーダー 18:30) 土日祝 11:00～18:00(ラストオーダー 17:30)	年末年始
喫茶	1階	平日 7:00～20:00 土日祝 8:00～19:00	年末年始
コンビニエンスストア(売店)	1階	24時間営業	年中無休
ATM(コンビニ売店内)	1階	24時間営業	
美容室	19階	平日 9:00～18:00	日曜・祝日
理容室	19階	平日 9:00～18:00	日曜・祝日
郵便ポスト	1階	病院正面玄関横、1階コンビニ売店内	
コインロッカー	1階	1階コンビニ売店横	
がん情報プラザ、図書など	1階		
飲料自動販売機	1、2階ほか		
コインランドリー	各病棟洗濯室(利用時間:9:00～19:00)		
プリペイドカード販売	各病棟食堂内、または、エレベーターホール(精算機:1階ロビー)		

【理念・基本方針】

・理念

社会と協働し、全ての国民に最適ながん医療・がん予防を届ける

・目指すVision

日本のがん医療の旗艦病院として、一人一人の患者さんに最適な世界最高レベルの医療を提供する。

・基本方針

1. 安全で先駆的医療の開発・導入を推進し、質の高い個別化医療を提供する。
2. 国際連携を推進し、病院と研究部門が一体となって、がんと向き合う人々とともに新たな診断・治療法の開発に取り組む。
3. 我が国のがん診療の均てん化を牽引し、がんの治療成績の向上を目指す。
4. 相談支援、情報発信、がん教育、研究を通じて、全ての国民が安心して尊厳を持って生きることを支える活動を行う。
5. 次世代のがん医療を担う専門家を育成し、がん医療の未来を切り拓く。
6. 職員が健康で、誇りとやりがいを持ち、安心して働ける職場づくりを実践する。

患者さんの権利

当院が医療を提供するにあたっては、以下のことを患者さんの権利として尊重します。

1. 個人の人格を尊厳される権利
2. 安全で質の高い医療を受ける権利
3. 病気、年齢、障害、個人の思想信条などによって差別されない権利
4. 納得のいく説明と情報提供を受け、自らの意志で検査・治療法などを選択または拒否できる権利
5. セカンド・オピニオンを受ける権利
6. 自らの診療録の開示を求める権利
7. プライバシーが尊厳され、個人情報保護される権利
8. 通常の社会生活や私生活を営む権利

こどもの権利

本院がこどもさんに医療を提供するにあたっては、以下のことをこどもの権利として尊重します。

1. こどもたちは1人の人間として尊重され、本人にとって最善の治療を受けることができます。
2. こどもたちは自分の病気の状態や自分の受ける治療について、発達段階に応じて十分な説明を受けることができます。
3. こどもたちは自分の受ける治療を決定する話し合いに参加し、意見を表明することができます。
4. こどもたちが自分の受ける治療についての話し合いに参加し、意見を表明することが難しい場合には、ご家族や親権者に代わり決定してもらうことができます。
5. こどもたちは疑問がある時には、医療スタッフに質問し、回答してもらうことができます。
6. こどもたちは治療における苦痛を伝え、その苦痛を和らげてもらうことができます。
7. こどもたちのプライバシーは守られます。
8. こどもたちは発達段階に応じた教育を受けることができます。
9. こどもたちは遊びやレクリエーション、文化活動に参加することができます。

当院から患者さんへのお願い(患者さんの責務)

1. 患者さんに適切な医療を提供するために、次のことをご協力ください。
 - ご自身の診断・治療に必要な情報を医療者に正確にお伝えください。
 - 検査や治療など医療行為については、職員の説明を十分に理解して納得してお受けください。その際には、職員の医療上の指示をお守りください。
 - 病院の快適な医療環境の維持にご協力いただくとともに、病院職員の指示をお守りください。特に以下の事項は固くお断りします。お守りいただけない場合には、診療を継続いただけないことがあります。
 - ☐ 他の患者さんや職員への暴力や暴言
 - ☐ 病院内及び敷地内での喫煙、飲酒及び火器の使用
 - ☐ 受けた医療に対する医療費の支払い拒否
 - ☐ 病院内での写真及び動画の撮影ならびにSNS等への無断使用と許可の無い録音
 - ☐ 指定された場所以外での携帯電話の通話
2. 当院は臨床研究中核病院・特定機能病院です。がんの予防・診断・治療の新たな開発を実現するために研究にご協力ください。